



中部人懇だより

令和8年度 第1号
令和8年7月発行
中部地区人権教育懇談会

子ども達の人権感覚を 日常生活の中でいかに養うか

そのきっかけづくりも人権教育担当者の役割の一つ

——【第1回懇談会 報告】 令和8年6月25日（木）実施 参加者：68名 ——

第1回懇談会は、各園・各校の人権教育担当者を対象に行いました。今回は、身近な日常生活の中で、人権感覚をいかに養うかということに重点を置いた内容でした。差別等の問題につながる芽は、日常生活の中にたくさんあります。そんな日常生活の小さな場面から、身近に人権を考えるきっかけを見出し、みんなで学び合っていくようにすること。そうした営みの積み上げこそが、差別を許さない心や態度の基盤をつくっていくという思いで今回の内容を企画しました。



正式名称は「中部地区人権教育懇談会」です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971（昭和46）年に発足した歴史ある懇談会です。



中部人懇とは？



★参加者の振り返りより ～懇談会後の振り返りの中から、ほんの一部ですが紹介します～

- ★カリキュラムを消化するための人権教育ではなく、子ども一人ひとりが「自分の日常と地続きの課題」として捉えられる内容へとシフトさせていく必要がある。学校生活や家庭生活の具体的なシーンと研修での学びをリンクさせ、子ども達が日頃の判断や行動の拠り所にできるような指導を意識したい。
- ★誰かのある面が「良いところ」なのか「悪いところ」なのかは、見る人の価値観やその場にあるルール、切り取られた一場面で判断されて決めつけられてしまうものだと感じた。何よりも、その人の持ち味をかけがえのないものとして尊重することを意識して、出会えた一人ひとりの子ども達の自己肯定感を高めていきたいと思う。
- ★子どもの日々の見取りや教員自身の関わりが、子どもの人権意識に大きく関わっていると感じた。子どもの良いところを積極的に見つけていきたい。そして主任として、子どもの身近な出来事から事例研などを行い、職員同士が大切にしたいことなどを共有していきたい。
- ★本校の取組を「人権感覚を育む」という視点から、もう一度見直さなければいけないと思った。マンネリ化や、ねらいが今一つ伝わっていないことがあるかもしれないので、2学期以降の取組を夏休み中に見直す場を設けたいと思った。

第1回懇談会を振り返って ～中部人懇 市町担当者より～

演習では、ある幼稚園での事例における教諭と子どもの関わりをもとに、自分だったらどうするのかという視点や自分に何が生かせるのかという視点から、子どもとのよりよい関わり方について話し合いました。今回はグループが校種別になっていたことや、事例が園だけでなく小・中・高でも考えられる内容だったので、どのグループも話し合いが活発になされていました。日常生活にある人権感覚を育むきっかけ・場面をいかにキャッチし生かせるか、そのためには子どもに関わる大人の人権感覚が重要だと改めて感じた研修でした。